



No. 8

米国マウントサイナイ医科 大学での留学体験記

ラトガース大学
ロバート・ウッド・ジョンソン・メディカルスクール

坂本 憲一

■はじめに

はじめまして、2018年春よりニューヨーク市にあるマウントサイナイ医科大学のDiabetes, Obesity, and Metabolism Instituteに留学し、現在もニュージャージー州にあるラトガース大学ロバートウッドジョンソンメディカルスクールにて研究を行っております、坂本と申します。早いもので渡米後3年が過ぎました。この間COVID-19によるニューヨークのロックダウン、職場の異動などさまざまなことがありました。この稿がこれから留学を考えている方に少しでも参考になれば幸いです。

■留学の経緯

学部学生時代にカリフォルニアに留学していた友人を訪れた際、アメリカの大学の自由な雰囲気、世界中から集まる学生との交流に大いに刺激を受け、漠然とはありますが、いつか自分もアメリカで働いてみたいと考えていました。特に千葉大学大学院に進学後、留学から帰局された先生方に強く刺激を受け、海外留学への思いを募らせていきました。骨格筋、腎臓に関する研究で学位を取得した後、今後自分の代謝研究の視野を広げていくために、俯瞰的に生命現象を捉えるような研究分野として臓器連関に興味をもちました。その頃千葉大学に赴任された小野啓先生に、その分野で業績を上げているDr. Buettnerを紹介していただき連絡をしたところ、ちょう

ど私も参加予定であったサンディエゴで行われるアメリカ糖尿病学会に来られるとのことでしたので、そこでinterviewをしていただけることになりました。その後何度かのやり取りを経て受け入れの了承をいただき、幸い海外フェローシップにも採用していただけることが決まり、2018年、セントラルパークの桜が満開の5月に家族を伴って渡米しました。

■ニューヨークでの生活

マウントサイナイ医科大学はニューヨーク市マンハッタン、アッパーイーストの境に位置しており、臨床研究や基礎医学研究の両分野で多くの業績を上げています。研究業績もさることながら、ポストドク向けのハウジングも大学の近くにあり、治安もよく、セントラルパークから徒歩5分という恵まれた場所にあることも手伝ってか、世界中から研究者が集まってきます。後述しますがCOVID-19で医療崩壊の危機に陥ったニューヨークにおいて、最前線で戦う病院の1つとして日本のニュースでも放送されていたそうなので、そこで名前を聞いた方もいるかもしれません。

ニューヨークの街は市内の公共交通機関も24時間営業で、タクシーやUberの利用も容易であることから、アメリカではきわめて珍しい自家用車の必要がない街です。ご存じの通りニューヨークは多くの人種、文化の入り混じる国際都市であり、スポーツ・ファッション・芸